

**2026年6月20日(土)****ランチョンセミナー**

12:10～13:00 | 第1会場（ウインクあいち 2F 大ホール）

**ランチョンセミナー1 補綴歯科臨床におけるデジタルワークフローの現在と展望―**

[LS1] 補綴歯科臨床におけるデジタルワークフローの現在と展望―

\*近藤 尚和<sup>1</sup> (1. 愛知学院大学 歯学部 冠橋義歯・口腔インプラント学)**ランチョンセミナー**

12:10～13:00 | 第2会場（ウインクあいち 6F 展示場604+605）

**ランチョンセミナー2 ～不要から戦略的活用へ～ 専門医が義歯安定剤の使用を勧める場合とは**

[LS2] ～不要から戦略的活用へ～ 専門医が義歯安定剤の使用を勧める場合とは

\*松田 謙一<sup>1,2</sup> (1. ハイライフ大阪梅田歯科医院、2. 関西支部)**ランチョンセミナー**

12:10～13:00 | 第3会場（ウインクあいち 5F 小ホール1）

**ランチョンセミナー3 STREAK- I ；麻酔も投薬もなくせる未体験ゾーンのレーザー治療機器の紹介**

座長：佐久間 重光（愛院大）

[LS3] STREAK- I ；麻酔も投薬もなくせる未体験ゾーンのレーザー治療機器の紹介

\*矢島 孝浩<sup>1</sup> (1. やじま歯科医院)**ランチョンセミナー**

12:10～13:00 | 第4会場（ウインクあいち 5F 小ホール2）

**ランチョンセミナー4 Smilecloud 3DNA 初期導入から臨床応用へのステップ**

[LS4] Smilecloud 3DNA 初期導入から臨床応用へのステップ

\*梶岡 宣好<sup>1</sup> (1. すぎおか歯科クリニック)

**2026年6月21日(日)****ランチョンセミナー**

12:10 ~ 13:00 | 第1会場 (ウイंकあいち 2F 大ホール)

**ランチョンセミナー5 歯科医療の進化を支える3Dプリンター –実践的アプローチ–**

[LS5] 歯科医療の進化を支える3Dプリンター –実践的アプローチ–

\*吉田 茂治<sup>1</sup> (1. パークサイドデンタルオフィス)**ランチョンセミナー**

12:10 ~ 13:00 | 第2会場 (ウイंकあいち 6F 展示場604+605)

**ランチョンセミナー6 モリタDXの新提案「Accuiosから始まるデジタル連携」**

座長：田中 豊 (株式会社モリタ)

[LS6] モリタDXの新提案「Accuiosから始まるデジタル連携」

\*北道 敏行<sup>1</sup> (1. きたみち歯科医院)**ランチョンセミナー**

12:10 ~ 13:00 | 第3会場 (ウイंकあいち 5F 小ホール1)

**ランチョンセミナー7 補綴の力で診る口腔機能低下症 –口腔機能検査の補綴治療への活かし方–**

[LS7] 補綴の力で診る口腔機能低下症 –口腔機能検査の補綴治療への活かし方–

\*上田 貴之<sup>1</sup> (1. 東京歯科大学老年歯科補綴学講座)**ランチョンセミナー**

12:10 ~ 13:00 | 第4会場 (ウイंकあいち 5F 小ホール2)

**ランチョンセミナー8 配向型インプラントFINESIA®の科学的情報と骨質劣化症例への治療戦略**

座長：澤瀬 隆 (長崎大)

[LS8] 配向型インプラントFINESIA®の科学的情報と骨質劣化症例への治療戦略

\*黒嶋 伸一郎<sup>1</sup> (1. 北海道大学大学院歯学研究院 口腔機能学分野 冠橋義歯・インプラント再生補綴学教室)

ランチョンセミナー

■ 2026年6月20日(土) 12:10 ~ 13:00 | 会場 第1会場 (ウインクあいち 2F 大ホール)

ランチョンセミナー1 補綴歯科臨床におけるデジタルワークフローの現在と展望ー

協賛：インビザライン・ジャパン合同会社

[LS1] 補綴歯科臨床におけるデジタルワークフローの現在と展望ー

\*近藤 尚和<sup>1</sup> (1. 愛知学院大学 歯学部 冠橋義歯・口腔インプラント学)

ランチョンセミナー

2026年6月20日(土) 12:10 ~ 13:00 | 第1会場 (ウイंकあいち 2F 大ホール)

ランチョンセミナー1 補綴歯科臨床におけるデジタルワークフローの現在と展望

協賛：インビザライン・ジャパン合同会社

【LS1】補綴歯科臨床におけるデジタルワークフローの現在と展望

\*近藤 尚和<sup>1</sup> (1. 愛知学院大学 歯学部 冠橋義歯・口腔インプラント学)

キーワード：口腔内スキャナー、補綴歯科治療、デジタルワークフロー

近年、補綴歯科臨床の現場においては、口腔内スキャナー（IOS）を起点としたデジタルワークフローが急速に普及している。

本講演では、iTero Luminaを用いた基礎研究の結果をもとに、印象精度と歯列の再現性を高めるための具体的な運用ポイントについて、エビデンス・ベースで解説する。特に以下の点にフォーカスして、デジタルワークフローの現在と今後の展望を会員の先生方と討論したい。

- ・日常臨床で適用可能なデジタルワークフローの設定
  - ・スキャン精度を左右するパウダー活用の実践的テクニック
  - ・スキャンデータの精度が補綴設計に与える影響とその結果から導かれた設計原則を整理する
- 光学印象採得の保険適用も進む、補綴CAD/CAM冠を中心とした現状の活用に加え、今後の補綴臨床・インプラント臨床におけるデジタルワークフローについても触れる。

すなわち、口腔内スキャナーを単なる“印象採得機器”としてではなく、診療ワークフローの起点となるツールとしてどう活用するかという視点から、臨床実装の考え方を提示する。

本講演を通じて、補綴歯科治療ならびに口腔インプラント治療におけるデジタルワークフローの本質を、再定義し、解説する。

ランチョンセミナー

■ 2026年6月20日(土) 12:10 ~ 13:00 | 第2会場 (ウインクあいち 6F 展示場604+605)

**ランチョンセミナー2 ～不要から戦略的活用へ～ 専門医が義歯安定剤の使用を勧める場合とは**

協賛：Haleonジャパン株式会社

[LS2] ～不要から戦略的活用へ～ 専門医が義歯安定剤の使用を勧める場合とは

\*松田 謙<sup>1,2</sup> (1. ハイライフ大阪梅田歯科医院、2. 関西支部)

ランチョンセミナー

2026年6月20日(土) 12:10 ~ 13:00 | 第2会場 (ウイंकあいち 6F 展示場604+605)

ランチョンセミナー2 ～不要から戦略的活用へ～ 専門医が義歯安定剤の使用を勧める場合とは

協賛：Haleonジャパン株式会社

【LS2】～不要から戦略的活用へ～ 専門医が義歯安定剤の使用を勧める場合とは

\*松田 謙一<sup>1,2</sup> (1. ハイライフ大阪梅田歯科医院、2. 関西支部)

キーワード：義歯の3要素から考える義歯安定剤の役割、歯安定剤に関するエビデンス、義歯安定剤の使用を勧める症例

歯科医師にとって義歯安定剤は、「適切な義歯が製作されていれば不要なもの」、「義歯臨床が不得意な場合に勧めるもの」、あるいは「不適合義歯への応急的な対応」といった否定的なイメージを持たれがちである。

しかし実際の臨床においては、補綴専門医であっても一定の条件下では義歯安定剤の使用を推奨する場面が存在する。本セミナーでは、義歯安定剤を感覚的に否定・肯定するのではなく、適切な臨床的判断に基づいた一つの選択肢として再考することを目的として、講演を行いたい。

まず、義歯の3要素（支持・把持・維持）の観点から義歯安定剤が果たす役割を整理し、何のために義歯安定剤が必要なのか？を考察してみたい。

続いて、補綴専門医が知っておくべき、近年の義歯安定剤の有効性に関するエビデンスを紹介する。その上で、義歯臨床において「あえて使用を考慮すべき場面」とはどのような症例かを具体的に供覧したい。

義歯安定剤の役割を理解して、患者に正しく勧めることは、義歯の機能性の向上のみならず、患者のQOLの向上や心理的な安心感にも繋がる重要な要素である。

さらに、臨床現場で不可欠となる義歯安定剤の正しい使用方法、および患者への適切な説明と指導のポイントについても詳しく解説する。

本講演を通じて、義歯安定剤を単なる応急的な対処法としてではなく、患者の満足度を高めるための有効なツールとして戦略的に活用するための指針を示したい。

ランチョンセミナー

■ 2026年6月20日(土) 12:10 ~ 13:00 | Ⅲ 第3会場 (ウインクあいち 5F 小ホール1)

**ランチョンセミナー3 STREAK-Ⅰ；麻酔も投薬もなくせる未体験ゾーンのレーザー治療機器の紹介**

座長：佐久間 重光 (愛院大)

協賛：株式会社アブソルート

[LS3] STREAK-Ⅰ；麻酔も投薬もなくせる未体験ゾーンのレーザー治療機器の紹介

\*矢島 孝浩<sup>1</sup> (1. やじま歯科医院)

## ランチョンセミナー

2026年6月20日(土) 12:10 ~ 13:00 | 第3会場 (ウイंकあいち 5F 小ホール1)

## ランチョンセミナー3 STREAK- I ; 麻酔も投薬もなくせる未体験ゾーンのレーザー治療機器の紹介

座長：佐久間 重光 (愛院大)

協賛：株式会社アブソルート

## [LS3] STREAK- I ; 麻酔も投薬もなくせる未体験ゾーンのレーザー治療機器の紹介

\*矢島 孝浩<sup>1</sup> (1. やじま歯科医院)

キーワード：無麻酔、口腔内溶接、印象採得

Nd:YAGレーザーは組織浸透力が強く組織ダメージを与えやすいもの？

従来はそのようなイメージでとらえられがちなNd:YAGレーザーであったが、STREAK- I は安全にかつ多様な臨床に浸潤麻酔さえ不要にて使用できる機器である。今回紹介するSTREAK- I は他のNd:YAGレーザーにはない独自の発振機構を備え、最高出力13.86W最大ピークパワー4KWと高出力を備えたレーザー機器であり、ハイピークパルスタイプのフレキシブルファイバー導光式のNd:YAGレーザーである。さらにパルス発振の詳細なコントロールが可能で1~99ppsまで細かなコントロールが可能であり、その発振は1万分の数秒単位と繊細なものである。最大の特徴はパルス幅を4種類備えており、50 $\mu$ s、100 $\mu$ s、200 $\mu$ s、400 $\mu$ sと可変式であり、パルス幅の違いにより軟組織から硬組織まで様々な治療に応用できる。またファイバー先端を加工することにより先端は最大2780℃になる(金沢大学)が1万分の数秒単位の正確な発振そして独自の注水機構により熱蓄積が起こりにくく、歯髄処置においてさえ無麻酔下にて使用が可能となる。補綴分野においても印象採得をはじめにろう着用インデックス採得、口腔内溶接など多様な応用が可能となる。今回はさまざまな臨床例とともに紹介する。

ランチョンセミナー

■ 2026年6月20日(土) 12:10 ~ 13:00 | Ⅲ 第4会場 (ウインクあいち 5F 小ホール2)

ランチョンセミナー4 Smilecloud 3DNA 初期導入から臨床応用へのステップ

協賛：ストローマン・ジャパン株式会社

[LS4] Smilecloud 3DNA 初期導入から臨床応用へのステップ

\*梶岡 宣好<sup>1</sup> (1. すぎおか歯科クリニック)

ランチョンセミナー

2026年6月20日(土) 12:10 ~ 13:00 | 第4会場 (ウイंकあいち 5F 小ホール2)

**ランチョンセミナー4 Smilecloud 3DNA 初期導入から臨床応用へのステップ**

協賛：ストローマン・ジャパン株式会社

**[LS4] Smilecloud 3DNA 初期導入から臨床応用へのステップ**

\*相岡 宣好<sup>1</sup> (1. すぎおか歯科クリニック)

キーワード：デジタル診断、補綴治療計画、顔貌主導型の補綴治療(Facially Driven Prosthetics)

デジタル技術が日常に浸透した今日、歯科医療の完全なデジタル化は不可欠な要件となっています。従来の口腔内を主流とした補綴計画から、顔貌主導型補綴治療（Facially Driven Prosthetics）へと移行する時代を迎えました。

本稿では、デジタルツールを活用した顔貌主導型補綴治療計画をテーマに、Smilecloud3DNAを用いた具体的なプロセスを解説します。本ソフトは無料で導入できるため、初期設定から臨床応用までの手順を段階的にご紹介します。高度な補綴治療のビジュアル化は、患者様の同意獲得に貢献し、新たな歯科臨床の可能性を拓きます。

ランチョンセミナー

■ 2026年6月21日(日) 12:10 ~ 13:00 | Ⅲ 第1会場 (ウインクあいち 2F 大ホール)

ランチョンセミナー5 歯科医療の進化を支える3Dプリンター —実践的アプローチ—

協賛：株式会社ヨシダ

[LS5] 歯科医療の進化を支える3Dプリンター —実践的アプローチ—

\*吉田 茂治<sup>1</sup> (1. パークサイドデンタルオフィス)

## ランチョンセミナー

2026年6月21日(日) 12:10 ~ 13:00 | 第1会場 (ウイंकあいち 2F 大ホール)

## ランチョンセミナー5 歯科医療の進化を支える3Dプリンター –実践的アプローチ–

協賛：株式会社ヨシダ

## | [LS5] 歯科医療の進化を支える3Dプリンター –実践的アプローチ–

\*吉田 茂治<sup>1</sup> (1. パークサイドデンタルオフィス)

キーワード：デジタルワークフロー、3Dプリント臨床応用、MIDASとSprintRay Pro 2の比較

歯科臨床ではデジタルワークフローの発展により、口腔内スキャナー（IOS）を起点とした補綴装置の製作が、診査・診断から設計・製作までを連続的に統合する手法として重要性を高めている。従来はミリングマシンによる切削加工が中心であったが、近年は付加製造である3Dプリントが注目されている。3Dプリントは、スキャンから設計、造形、洗浄、二次重合、仕上げまでを院内で完結でき、形態再現性や設計自由度、同時造形性に優れる。一方で、材料強度や新規材料導入の遅れなど課題は残るものの、歯科技工士不足が進む中、業務効率化に大きく寄与する技術と言える。また、従来の切削や手作業では困難であった装置製作にも対応可能である。

しかし臨床応用には、正確なデータ取得、目的に応じた設計、機器および材料特性の理解が不可欠である。本講演では、IOS導入の意義を踏まえ、3Dプリントの基本フローを整理し解説する。さらに、歯科技工室設置型CAD/CAMユニットであるMIDASの特長を、SprintRay Pro 2との比較を交えて紹介し、補綴製作における有用性、設計設定が造形精度や臨床成績に与える影響について考察する。

ランチョンセミナー

■ 2026年6月21日(日) 12:10 ~ 13:00 | Ⅱ 第2会場 (ウインクあいち 6F 展示場604+605)

ランチョンセミナー6 モリタDXの新提案「Accuiosから始まるデジタル連携」

座長：田中 豊（株式会社モリタ）

協賛：株式会社モリタ

[LS6] モリタDXの新提案「Accuiosから始まるデジタル連携」

\*北道 敏行<sup>1</sup> (1. きたみち歯科医院)

ランチョンセミナー

2026年6月21日(日) 12:10 ~ 13:00 | 第2会場 (ウイंकあいち 6F 展示場604+605)

**ランチョンセミナー6 モリタDXの新提案「Accuiosから始まるデジタル連携」**

座長：田中 豊（株式会社モリタ）

協賛：株式会社モリタ

**[LS6] モリタDXの新提案「Accuiosから始まるデジタル連携」**

\*北道 敏行<sup>1</sup> (1. きたみち歯科医院)

キーワード：IOS、CAD/CAM、デジタル連携

モリタが歯科診療にCAD/CAMを導入してから約35年。当時はアナログ技術の限界をエビデンスと経験で補完する時代であったが、PCの普及とともに歯科医療は急速にデジタルへと転換した。当院でも2008年に歯科用CAD/CAMを導入し、3年後にはデジタル歯科に特化した診療体制を新たに構築した。また同時期CBCTを活用した高精度かつ安全なインプラント治療をも実践してきた。こうした流れの中、歯科DXを次のステージへと押し上げる純国産IOS「Accuios」が登場した。本システムは診療プロセス全体を貫くデータ統合を実現し、業務効率と診療品質を飛躍的に向上させる。さらにDOOR Link Labとの連携により、院内外をシームレスかつセキュアに接続する。本発表では、Accuiosが切り拓く新たな歯科医療の実像を提示する。

ランチョンセミナー

■ 2026年6月21日(日) 12:10 ~ 13:00 | Ⅲ 第3会場 (ウインクあいち 5F 小ホール1)

**ランチョンセミナー7 補綴の力で診る口腔機能低下症 ―口腔機能検査の補綴治療への活かし方―**

協賛：株式会社ジーシー

[LS7] 補綴の力で診る口腔機能低下症 ―口腔機能検査の補綴治療への活かし方―

\*上田 貴之<sup>1</sup> (1. 東京歯科大学老年歯科補綴学講座)

## ランチョンセミナー

2026年6月21日(日) 12:10 ~ 13:00 | 第3会場 (ウイंकあいち 5F 小ホール1)

## ランチョンセミナー7 補綴の力で診る口腔機能低下症 ―口腔機能検査の補綴治療への活かし方―

協賛：株式会社ジーシー

## [LS7] 補綴の力で診る口腔機能低下症 ―口腔機能検査の補綴治療への活かし方―

\*上田 貴之<sup>1</sup> (1. 東京歯科大学老年歯科補綴学講座)

キーワード：口腔機能検査、口腔機能管理、治療計画

令和8年度診療報酬改定では、口腔機能検査に関する施設基準が廃止され、すべての歯科医療機関で各種検査および口腔機能管理料の算定、さらに歯科衛生士による口腔機能に関する実地指導を、加算とは独立して算定できるようになった。これは、口腔機能検査が“すべての歯科医院で一般的に行うことができる検査”として位置づけられたことを示すものといえるだろう。咀嚼機能や発音機能などを日常的に治療対象とする補綴歯科医にとって、口腔機能検査はもはや必須の評価法といえる。これは、保険診療に限らず、自費診療の補綴治療であっても同様である。

実際に、日本補綴歯科学会誌に掲載された過去3年間の専門医症例報告をみると、ほとんどの症例で客観的な機能検査が実施されており、最も多かったのは咀嚼機能検査、次いで咬合力検査であった。さらに、多くの症例で複数の客観的検査と主観的評価が術前・術後に行われていた。このように補綴治療の術前検査として、また、術後の機能回復の程度の評価として口腔機能検査が広く用いられてる。

本講演では、症例を通して補綴歯科医が口腔機能を評価する意義を再考するとともに、診療報酬上の検査項目を補綴学的観点からどのように解釈し、臨床へ応用できるかを紹介する。さらに、補綴の力と口腔機能管理が切り拓く歯科医療の未来について考えたい。

## ランチョンセミナー

■ 2026年6月21日(日) 12:10 ~ 13:00 | Ⅲ 第4会場 (ウインクあいち 5F 小ホール2)

## ランチョンセミナー8 配向型インプラントFINESIA®の科学的情報と骨質劣化症例への治療戦略

座長：澤瀬 隆 (長崎大)

協賛：京セラメディカル株式会社

[LS8] 配向型インプラントFINESIA®の科学的情報と骨質劣化症例への治療戦略

\*黒嶋 伸一郎<sup>1</sup> (1. 北海道大学大学院歯学研究院 口腔機能学分野 冠橋義歯・インプラント再生補綴学教室)

## ランチョンセミナー

2026年6月21日(日) 12:10 ~ 13:00 | 第4会場 (ウインクあいち 5F 小ホール2)

## ランチョンセミナー8 配向型インプラントFINESIA®の科学的情報と骨質劣化症例への治療戦略

座長：澤瀬 隆 (長崎大)

協賛：京セラメディカル株式会社

## [LS8] 配向型インプラントFINESIA®の科学的情報と骨質劣化症例への治療戦略

\*黒嶋 伸一郎<sup>1</sup> (1. 北海道大学大学院歯学研究院 口腔機能学分野 冠橋義歯・インプラント再生補綴学教室)

キーワード：配向型インプラント、骨質、広範囲顎骨支持型装置

2017年、歯工産学連携により開発・上市されたFINESIA®インプラントは配向型スレッドデザインであり、基礎的研究を基盤として、荷重環境下で骨質の向上が期待されるデンタルインプラントである。2023年にはミクロ～ナノ構造を有するブラスト&酸エッチング処理で表面性状が改質された結果、極めて良好な骨結合を達成することが可能となった。骨質には種々の考え方があるものの、世界的な基準としては、骨微細構造、骨代謝回転、石灰化、ならびに損傷の蓄積として定義されており、以前のような骨密度依存概念ではなく、骨芽細胞、破骨細胞、骨細胞などの骨関連細胞が主体となって構成されている。

一方、良性腫瘍、顎骨壊死、ならびに悪性腫瘍などで広範囲に顎骨が切除され、腭骨を中心として再建された部位では、外科的治療、放射線治療、ならびに化学療法などで骨質が大きく劣化していること、また、大きな顎骨欠損に起因して患者の生活の質（QOL）や口腔関連QOLが著しく低下していることから、保険収載されている歯科インプラント治療を応用した広範囲顎骨支持型装置は、さまざまなことを考慮した上で行うべき補綴歯科治療術式であると思われる。

本講演では、配向型インプラントの特徴や優位性に関して、基礎的研究を基盤とした最新の科学的情報をお伝えするとともに、ティッシュレベルインプラントの特徴に加え、骨質が劣化していると考えられる症例への歯科インプラント治療に関する情報をご提供する。本セミナーが先生方にとって有益な情報取得になれば幸いである。